

# 令和2年度登録販売者試験問題

## 山梨県

(令和2年12月23日午後)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40 問)	60 問	120 分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20 問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 2 この試験問題は問61から問120までの60問です。解答は、解答用紙の「良い例」にならって、解答欄の解答番号を1ヶ所ぬりつぶしてください。指示された方法以外での記入や、1つの問題に複数解答した場合には、その問題の解答は無効になります。
- 3 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消しあとが残らないようにプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておいてください。
- 4 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 5 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、試験官の指示に従ってください。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができます。

## 主な医薬品とその作用（40問）

【問6 1】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。

- 1 小青竜湯
- 2 六君子湯
- 3 麦門冬湯
- 4 小建中湯

【問6 2】 発熱が起こる仕組み及び解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すことができる医薬品（内服薬）の総称である。
- b 一般用医薬品の解熱鎮痛薬は、複数の有効成分が配合されている製品が多く、他の解熱鎮痛薬やかぜ薬等が併用されると、同じ成分又は同種の作用を持つ成分が重複して、効き目が強く現れすぎたり、副作用が起こりやすくなったりするおそれがある。
- c アスピリン喘息は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では生じる可能性はない。
- d プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節する働きがある。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

【問6 3】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

2錠中	
イブプロフェン	130 mg
アセトアミノフェン	130 mg
無水カフェイン	80 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	60 mg
乾燥水酸化アルミニウムゲル	70 mg

この解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 出産予定日 12 週以内の妊婦については服用しないこととされている。
- b アリルイソプロピルアセチル尿素は、脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- c 乾燥水酸化アルミニウムゲルは、解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害の軽減を目的としている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問6 4】 眠気を促す薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ブロモバレリル尿素は、胎児に障害を引き起こす可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けるべきである。
- b カノコソウ、チャボトケイソウ等の生薬成分が複数配合されている製品があるが、これら生薬成分のみからなる製品は、通常、長期連用する必要がある場合に用いられる。
- c 酸棗仁湯さんそうにんとうは、症状の原因となる体質の改善を主眼としているため、1 週間位服用して症状の改善が認められない場合でも、1 ヶ月位服用を継続する必要がある。
- d 加味帰脾湯かみきひとうは、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 6 5】 眠気を防ぐ薬（眠気防止薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カフェインには、心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸<sup>き</sup>が現れることがあるため、心臓病のある人は服用を避ける必要がある。
- b カフェインには、作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。
- c 一般用医薬品の眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして500 mgが上限とされている。
- d 眠気による倦怠感<sup>けん</sup>を和らげる補助成分として、ビタミンDが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

【問 6 6】 鎮暈薬<sup>うん</sup>（乗物酔い防止薬）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 乗物の運転操作をするときは、乗物酔い防止薬の使用を控える必要がある。
- 2 乗物酔い防止薬には、主として吐きけを抑えることを目的とした成分も配合されているため、つわりに伴う吐きけへの対処としても使用してよい。
- 3 乳幼児が乗物で移動中にむずがるような場合には、気圧変化による耳の痛みなどの他の要因が考慮されるべきであり、乗物酔い防止薬を安易に使用することのないよう注意される必要がある。
- 4 副作用が強く現れるおそれがあるので、かぜ薬や鎮咳去痰薬<sup>がい たん</sup>等との併用は避ける必要がある。

【問67】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ニコチン酸アミドは、不安や緊張などの心理的な要因を和らげることを目的として配合される鎮静成分である。
- b ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間は短い。
- d ジフェンドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問68】 小児の疳及び小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 身体的な問題がなく生じる夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状については、発達段階の一時的な症状と保護者が達観することも重要である。
- b 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合にあっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。
- c レイヨウカクは、主として健胃作用を期待して用いられる。
- d 小児の疳を適応症とする漢方処方製剤として、葛根湯がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

【問69】 次の表は、ある鎮咳去痰薬がいたんに含まれている成分の一覧である。

9錠中	
ジヒドロコデインリン酸塩	30 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	75 mg
ノスカピン	60 mg
ブロムヘキシン塩酸塩	12 mg
トラネキサム酸	420 mg

この鎮咳去痰薬がいたんに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジヒドロコデインリン酸塩は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行する。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳を鎮めることを目的として配合されている。
- c ノスカピンは、麻薬性鎮咳成分がいたんとも呼ばれ、長期連用や大量摂取によって多幸感が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- d ブロムヘキシン塩酸塩は、気道の炎症を和らげることを目的として配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問70】 鎮咳去痰薬がいたん及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる成分として、ジプロフィリンがある。
- b グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液の分泌を促進する作用がある。
- c セネガはオオバコ科のオオバコの花期の全草を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d 甘草湯かんぞうとうは、構成生薬がカンゾウのみからなる漢方処方製剤で、体力に関わらず広く応用でき、激しい咳、口内炎、しわがれ声に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬(含嗽薬)とその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ポビドンヨードが配合された含嗽薬では、その使用によって銀を含有する歯科材料(義歯等)が変色することがある。
- b アズレンスルホン酸ナトリウム(水溶性アズレン)は、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- c クロルヘキシジン塩酸塩は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正

【問 7 2】 強心薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用(強心作用)を期待して、生薬成分であるジャコウが用いられる。
- b ゴオウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。
- c 苓桂朮甘湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人では、偽アルドステロン症を生じやすい。
- d センソが配合された一般用医薬品では、センソの1日用量が10mg以下となるよう用法・用量が定められている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	誤

【問 7 3】 高コレステロール改善薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 高コレステロール改善薬の使用は、食事療法、運動療法の補助的な位置づけである。
- b 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として使用される医薬品である。
- c 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）は、悪心（吐きけ）、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	正	正	正

【問 7 4】 貧血及び貧血用薬（鉄製剤）に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 貧血用薬（鉄製剤）の主な副作用として、間質性肺炎を生じることが知られている。
- b 貧血のうち、鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
- c 貧血用薬（鉄製剤）を服用する前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が促進される。
- d 体の成長が著しい年長乳児や幼児、月経血損失のある女性、鉄要求量の増加する妊婦・母乳を与える女性では、鉄欠乏状態を生じやすい。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 7 5】 循環器用薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。
- 2 イノシトールヘキサニコチネートは、末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- 3 ユビデカレノン<sup>®</sup>は、作用増強を目的として強心薬との併用が推奨される。
- 4 ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

【問 7 6】 女性の体質及び婦人薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 女性の月経は、子宮の内壁を覆っている膜（子宮内膜）が剥がれ落ち、血液（経血）と共に排出される生理現象で、一生のうち妊娠可能な期間に、妊娠期間中などを除き、ほぼ毎月、周期的に起こる。
- b 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、妊娠中の女性ホルモンの補充のために用いられる。
- c 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- d 月経周期は、種々のホルモンの複雑な相互作用によって調節されており、視床下部や下垂体で産生されるホルモンと、卵巣で産生される女性ホルモンが関与する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

【問 7 7】 アレルギーに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、肥満細胞を直接刺激し、ヒスタミン等の物質を遊離させる。
- b アレルゲンに対して徐々に体を慣らしていく治療法を減感作療法という。
- c 肥満細胞から遊離したヒスタミンは、周囲の器官や組織の表面に分布する特定のタンパク質（受容体）と反応することで、血管収縮、血管透過性低下等の作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤

【問 7 8】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せどれか。

- a メチルエフェドリン塩酸塩は、依存性がある成分であり、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- b 一般用医薬品には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療に用いることを目的とするものはない。
- c 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、トラネキサム酸が配合されている場合がある。
- d 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、ジフェンヒドラミン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【問 7 9】 鼻に用いる薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ベンザルコニウム塩化物は、陽性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示すほか、ウイルスに対しても効果がある。
- b リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛み、痒み<sup>かゆ</sup>を抑えることを目的として配合されている場合がある。
- c 点鼻薬は局所（鼻腔内）に適用されるものであり、全身的な影響を生じることはない。
- d 鼻粘膜が腫れてポリープ（鼻茸<sup>たけ</sup>）となっている場合には、一般用医薬品により対処を図ることは適当でなく、医療機関による治療（ステロイド性抗炎症成分を含む点鼻薬の処方等）が必要となる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問80】 一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、尿糖・尿タンパク検査において正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから4週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。
- c 一般用検査薬の対象には、遺伝性疾患の診断に関係するものも含まれる。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問81】 消化器に作用する薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 中和反応によって胃酸の働きを弱めること（制酸）を目的として、炭酸水素ナトリウム（重曹）のほか、酸化マグネシウム等のマグネシウムを含む成分が配合されている場合がある。
- b ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- c 胃粘膜保護・修復成分であるアルジオキサは、アルミニウムを含むため、透析を受けている人に推奨される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	正	誤
4	誤	誤	正

【問 8 2】 止瀉薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 次没食子酸ビスマスは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として用いられる。
- b タンニン酸アルブミンは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c 木クレオソートは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 8 3】 ロペラミド塩酸塩が配合された一般用医薬品の止瀉薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としており、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢については適用対象ではない。
- b 腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける必要がある。
- c 重篤な副作用として、まれにショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症を生じることがある。
- d 15歳未満の小児には適用がない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 8 4】 瀉下薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a センナは、マメ科のチンネベリセンナ又はアレキサンドリアセンナの小葉を基原とする生薬である。
- b ダイオウは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増す。
- c カサントラノールは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- d カルメロースナトリウムは、分解して生じるガスによって便通を促す。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問 8 5】 浣腸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 剤形には注入剤（肛門から薬液を注入するもの）のほか、坐剤となっているものもある。
- b 注入剤を半量使用する場合、残量を冷蔵保管することで安全に再利用できる。
- c 注入剤を使用する時の注意点として、できるだけ早く押し込み、注入が終わったら放出部をゆっくり抜き取ることが挙げられる。
- d 浣腸薬は一般に、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 8 6】 駆虫薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 駆虫薬は腸管内に生息する虫体のほか、虫卵にも効果を示す。
- b 複数の駆虫薬を併用することで、組合せによってはかえって駆虫作用が減弱することもある。
- c 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と<sup>ぎょう</sup>蟯虫である。
- d 食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 8 7】 痔<sup>じ</sup>及び痔疾<sup>じ</sup>用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の直腸粘膜にできた痔核<sup>じ</sup>は内痔核<sup>じ</sup>と呼ばれ、排便と関係なく、出血や患部の痛みを生じる。
- b 痔<sup>じ</sup>に対しては、痔疾<sup>じ</sup>用薬の使用と併せて、痔<sup>じ</sup>を生じた要因となっている生活習慣の改善等が図られることが重要である。
- c アルミニウムクロロヒドロキシアラントイネートは、痔<sup>じ</sup>に伴う痛みや痒み<sup>かゆ</sup>を和らげることを主な目的として用いられる。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は、血管収縮作用による止血効果を期待して配合されていることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 8 8】 泌尿器用薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カゴソウは、シソ科のウツボグサの花穂を基原とする生薬であり、尿量増加（利尿）作用を期待して配合されている場合がある。
- b キササゲは、ノウゼンカズラ科のキササゲ等の果実を基原とする生薬であり、尿路の殺菌消毒効果を期待して配合されている場合がある。
- c ソウハクヒは、クワ科のマグワの根皮を基原とする生薬であり、尿路の殺菌消毒効果を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤

【問 8 9】 目及び点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 点眼薬の1滴の薬液の量は約 $5 \mu\text{L}$ であるのに対して、結膜囊<sup>のう</sup>の容積は $3 \mu\text{L}$ 程度とされている。
- b 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものではなく、配合されている成分によっては、緑内障の悪化につながるおそれがある。
- c 点眼薬の使用によって、皮膚に発疹<sup>しん</sup>、発赤<sup>かゆ</sup>、痒み等、全身性の副作用が現れることがある。
- d コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	正

【問90】 次の表は、ある眼科用薬に含まれている成分の一覧である。

パンテノール	0.1 %
ビタミンB <sub>6</sub>	0.1 %
L-アスパラギン酸カリウム	1 %
ネオスチグミンメチル硫酸塩	0.005 %
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	0.1 %
グリチルリチン酸二カリウム	0.1 %
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.01 %
塩酸テトラヒドロゾリン	0.01 %

この眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビタミンB<sub>6</sub>は、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を期待して配合されている。
- b L-アスパラギン酸カリウムは、結膜を通っている血管を収縮させて、目の充血を除去することを目的として配合されている。
- c ネオスチグミンメチル硫酸塩は、目の調節機能を改善する効果を目的として配合されている。
- d 塩酸テトラヒドロゾリンは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問91】 肌の角質化及びそれを改善する配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a たこ（<sup>べんち</sup>胼胝）は、角質層の一部が単純に肥厚したもので芯がなく、通常、痛みは伴わない。
- b ウイルス性のいぼ（<sup>ゆうぜい</sup>疣贅）は1～2年で自然寛解することが多い。
- c 角質軟化薬のうち、うおのめ（鶏眼）に用いる製品については、医薬品としてのみ認められている。
- d イオウは、角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

【問9 2】 頭皮・毛根に作用する配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カシュウは、血行促進、抗炎症などの作用を期待して配合されている。
- b エストラジオール安息香酸エステルは、女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して配合されている。
- c カルプロニウム塩化物は、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して配合されている。
- d チクセツニンジン<sup>のう</sup>は、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問9 3】 歯槽膿漏<sup>のう</sup>薬に含まれている成分とその主な配合目的に関する次の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	成分	主な配合目的
a	セチルピリジニウム塩化物	— 殺菌消毒作用
b	イソプロピルメチルフェノール	— 抗炎症作用
c	チモール	— 組織修復作用
d	カルバゾクロム	— 止血作用

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	正	誤

【問 9 4】 口内炎、口内炎用薬の成分及び口内炎に用いる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 口内炎の再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- b グリチルレチン酸は、患部の殺菌消毒を目的として配合される。
- c シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を基原とする生薬で、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。
- d 茵陳蒿湯は、体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの蕁麻疹、口内炎、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 9 5】 禁煙補助剤及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。
- b ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示す。
- c 咀嚼剤は、菓子のガムのように噛み、唾液を多く分泌させながら使用することが望ましい。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	正	正

【問 9 6】 滋養強壯保健薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビタミンAは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンB<sub>2</sub>は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。
- c ナイアシンは、皮膚や粘膜などの機能を維持することを助ける栄養素として配合される場合がある。
- d ヘスペリジン<sup>1)</sup>は、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問 9 7】 生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a レンギョウは、モクセイ科のレンギョウ又はシナレンギョウの果実を基原とする生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。
- b ショウマは、キンポウゲ科のサラシナショウマ、フブキショウマ、コライショウマ又はオオミツバショウマの果実を基原とする生薬で、血行促進、強心等の作用を期待して用いられる。
- c ボウフウは、バラ科のサンザシ又はオオミサンザシの偽果をそのまま、又は縦切若しくは横切したものを基原とする生薬で、健胃、消化促進等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤

【問 9 8】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、正しいものはどれか。

体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 防己黄耆湯 ぼういおうぎとう
- 2 乙字湯 おつじとう
- 3 大柴胡湯 だいさいことう
- 4 安中散 あんちゆうさん

【問 9 9】 殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アクリノールは、黄色の色素で、真菌や結核菌に対して効果がない。
- b ヨードチンキは、ヨウ素及びヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたもので、化膿<sup>のう</sup>している部位の消毒に適している。
- c 消毒用エタノールは、皮膚刺激性が弱いため、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用に適している。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |

【問 1 0 0】 殺虫剤に配合される成分とその分類の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	成分		分類
a	ペルメトリン	—	ピレスロイド系
b	メトキサジアゾン	—	有機リン系
c	オルトジクロロベンゼン	—	オキサジアゾール系
d	ジクロルボス	—	カーバメイト系

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |

## 医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に「透析療法を受けている人」と記載されている成分は、次のうちどれか。

- 1 カフェイン
- 2 クロルヘキシジングルコン酸塩
- 3 芍薬甘草湯<sup>しゃくやくかんぞうとう</sup>
- 4 スクラルフアート

【問102】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に「ぜんそくを起こしたことがある人」と記載されている成分として、正しいものの組合せはどれか。

- a プソイドエフェドリン塩酸塩
- b ピロキシカム
- c フェルビナク
- d ピレンゼピン塩酸塩水和物

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問103】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項において、「次の診断を受けた人」の項目欄に「胃・十二指腸潰瘍」と記載されている成分として、正しいものの組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩
- b エテンザミド
- c 次硝酸ビスマス
- d ジプロフィリン

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問104】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。
- b 「相談すること」には、その医薬品を使用する前に、その適否について専門家に相談した上で適切な判断がなされるべき事項について記載されているが、その医薬品を使用したあとに、副作用と考えられる症状等が生じた場合の対応については、記載されていない。
- c 「してはいけないこと」には、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問105】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、眠気、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載されている成分は、次のうちどれか。

- 1 ピコスルファートナトリウム
- 2 インドメタシン
- 3 センノシド
- 4 スコポラミン臭化水素酸塩水和物

【問106】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項において、「次の症状のある人」の項目欄に記載される症状と、それに関連する「主な成分・薬効群」に関する次の組合せのうち、正しいものはどれか。

	症状		主な成分・薬効群
a	高熱	—	かぜ薬
b	吐き気・嘔吐 <sup>おう</sup>	—	瀉下薬 <sup>しゃ</sup>
c	むくみ	—	ジフェンヒドラミン塩酸塩
d	口内のひどいただれ	—	ロートエキス

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問107】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に「妊婦又は妊娠していると思われる人」と記載されている「主な成分・薬効群」と、その理由に関する組合せの正誤のうち、正しい組合せはどれか。

	主な成分・薬効群	理由
a	オキセサゼイン	－ 妊娠中における安全性は確立されていないため
b	ヒマシ油類	－ 腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため
c	センノシド	－ 子宮収縮が抑制されるため

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問108】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 購入者等が購入後に製品を開封し、添付文書を見て初めて、自分にとって適当な製品でなかったことが分かるといった事態等を防ぐため、添付文書の内容の一部が外箱等にも記載されている。
- b 1回服用量中0.1mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とされているもの）は、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- c 製品の外箱等に、「使用にあたって添付文書をよく読むこと」等、添付文書の必読に関する事項が記載されている。
- d 医薬品医療機器等法に基づく表示だけでなく、消毒用アルコール等、危険物に該当する製品には消防法に基づく注意事項等、他法令に基づく表示も記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問109】 医薬品等に係る安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a (独) 医薬品医療機器総合機構では、医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）を行っているが、このサービスは医療関係者のみ利用可能である。
- b 医薬品・医療機器等安全性情報には、一般用医薬品による重篤な副作用に関する記事が掲載されたことはない。
- c 医薬品・医療機器等安全性情報は、厚生労働省及び（独）医薬品医療機器総合機構ホームページで閲覧が可能である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問110】 一般用医薬品の購入者等に対する情報提供に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a (独) 医薬品医療機器総合機構では、一般の購入者が添付文書の内容について、事前に閲覧できる環境の整備として、一般用医薬品の添付文書情報をホームページへ掲載している。
- b 製薬企業は、添付文書集を作成し、医療関係者に提供しなければならない。
- c 添付文書や外箱表示の記載内容が改訂された場合、改訂された内容が反映されていない製品が流通することはない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	正

【問 1 1 1】 医薬品医療機器等法に規定する副作用情報等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認条件として承認後の一定期間、安全性に関する調査及び調査結果の報告が求められている。
- b 登録販売者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- c 化粧品は、人体に対する作用が緩和であることから、化粧品の製造販売業者による厚生労働大臣（情報の整理を（独）医薬品医療機器総合機構に行わせることとした場合は、（独）医薬品医療機器総合機構）への副作用等の報告は、努力義務となっている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 1 1 2】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 1 項の規定に基づき、医薬品の製造販売業者が、その製造販売した医薬品について行う副作用等の報告のうち、15 日以内に厚生労働大臣に報告することとされている事項に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、死に至った事例
- b 医薬品によるものと疑われる感染症症例のうち、使用上の注意から予測できないもので、重篤（死亡を含む）な事例
- c 副作用症例・感染症の発生傾向が著しく変化したことを示す研究報告
- d 承認を受けた効能若しくは効果を有しないことを示す研究報告

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (a、d)      4 (b、c)      5 (c、d)

【問 1 1 3】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づき、医薬関係者が行う医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 報告に関する様式はなく、購入者等から副作用の症状等を可能な限り聞き取り、任意の方法で報告すればよい。
- b 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても、報告する必要がある。
- c 無承認無許可医薬品又は健康食品によると疑われる健康被害については、最寄りの保健所に連絡することとなっている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 1 1 4】 次の記述にあてはまる一般用医薬品の成分として、正しいものはどれか。

鼻みず、鼻づまり等の症状の緩和を目的として、鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、かぜ薬等に配合されていたが、この成分が配合された一般用医薬品による脳出血等の副作用症例が複数報告されたことから、厚生労働省から関係製薬企業等に対して、使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩等への速やかな切替えにつき指示がなされた。

- 1 アミノピリン
- 2 ジフェンヒドラミン塩酸塩
- 3 クロルフェニラミンマレイン酸塩
- 4 塩酸フェニルプロパノールアミン

【問 1 1 5】 薬物乱用防止に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 薬物乱用や薬物依存は、麻薬や覚醒剤等の違法薬物によるものばかりではない。
- b 薬物乱用防止を一層推進するため、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- c 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれ大きい。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	正	正	正

【問 1 1 6】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度は、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るため、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として 1980 年 5 月より運営が開始された。
- b 健康被害を受けた本人又は家族への給付は、医学的薬学的判断を要する事項について薬事・食品衛生審議会の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づいて行われる。
- c 要指導医薬品を適正に使用したにもかかわらず副作用による一定の健康被害が生じた場合、すべて救済制度の対象となる。
- d 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、医薬品製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 7】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項において、「モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン塩酸塩等）で治療を受けている人」と記載されている成分は、次のうちどれか。

- 1 テオフィリン
- 2 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 3 ブロメライン
- 4 ピコスルファートナトリウム

【問 1 1 8】 次の医薬品等のうち、適正に使用したにもかかわらず、副作用によって一定以上の健康被害が生じ、医薬品副作用被害救済制度の対象となるものはどれか。

- 1 一般用医薬品の一般用検査薬
- 2 無承認無許可医薬品
- 3 一般用医薬品の殺虫剤・殺鼠<sup>そ</sup>剤
- 4 一般用医薬品の日局収載ワセリン
- 5 外用痔疾<sup>じ</sup>用薬

【問 1 1 9】 医薬品PLセンターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a (独) 医薬品医療機器総合機構において、製造物責任法の施行と同時に開設された。
- b 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品PLセンターへの相談が推奨される。
- c 苦情を申し立てた消費者が製造販売元の企業と交渉するに当たって、裁判による解決に導くことを目的としている。
- d 医薬品及び医療機器に関する苦情を受け付けている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 1 2 0】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、正しいものはどれか。

インターフェロン製剤との併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994年1月、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。

- 1 だいさいこうとう 大柴胡湯
- 2 おうれんげどくとう 黄連解毒湯
- 3 ぼういおうぎとう 防己黄耆湯
- 4 ぼうふうつうしやうさん 防風通聖散
- 5 しやうさいこうとう 小柴胡湯